

○ 11月30日(水)

小学校スクールミーティング(伊根町立本庄小学校)

○ 畑 委員



舟屋で有名な伊根町の本庄小学校を訪問しました。本格的な冬の到来を間近にして、とても静かな里に浦島神社が長い歴史を守っています。本庄小学校は鎮守の森のすぐ横にありました。お昼前に到着しましたので、プログラムの一番はランチルームでの給食でした。地元で収穫された魚や野菜など、100%地産地消の給食には驚きました。お味噌も学校でみんなで作っているとのこと。窓の大きな気持ちの良い部屋で全校児童と一緒に楽しんだお昼はとても美味しくいただけました。

本庄小学校は、在校生19名教職員13名という小規模の学校です。1年生と6年生は単学年での授業ですが、2・3年生と4・5年生の複式学級が二つ。一つの教室で違った学年の授業を同時に進める先生のご苦労と児童たちの元気な姿に、授業参観させていただいて驚きと発見がたくさんありました。

本庄小学校には、英語の専科指導推進教員が配されています。アメリカ人のAET教員とともに、週に一回ですが英語の授業が熱心に導入されて、その授業にも参加しました。小学校での英語教育の現場を初めて参観したので、私自身どう評価して良いのか戸惑いました。しかし、懇談の時間に受けた説明でとても納得したことがあります。京都市への修学旅行の機会を利用して、日頃から交流のある立命館大学の留学生を訪問し、自由にコミュニケーションを楽しんでいる記録ビデオを見せていただきました。結果を求めすぎて心配するよりも、小学生の体験として、異国の人と直接コミュニケーションを取る楽しさを体験しておくことこそが、とても重要なのだと教えられました。

全校児童19名で取り組む「われら本庄・筒川魅力伝え隊」の発表に圧倒されました。高学年が中心となって、低学年のみんなも大きな声を出して、すごい迫力で見事にふるさと伊根の魅力を語ってくれました。素晴らしい発表でした。

小さな学校であることをポジティブな特質として、すべてのことに取り組んでおられる学校経営がとても印象に残りました。また、高齢化や過疎化の進む社会環境の中で、学校教育の現場にICTの導入を進め、とてもスムーズに活用しておられました。将来広い社会に飛び出していく児童たちが、物怖じせずに自信に満ちた歩みが続けてくれるようにと、地域社会や学校から強い願いを感じました。良い訪問の機会をいただいたと感謝申し上げます。

○ 11月30日(水)

小学校スクールミーティング(伊根町立本庄小学校)



○ 冷泉 委員

小規模校である本庄小学校での授業を見せていただきました。二学年同時進行する複式学級は教師の負担が大き過ぎるよう感じました。少人数でもやはり一人の教師が一つのクラスを持った方がよいのではないのでしょうか。

児童の皆さんと一緒に食べた給食は美味しかったです。多分当日大人数で訪問したからだと思いますが、料理が冷めていたのは残念でした。

丹後の良い所を発表してくれた児童全員の活動は素晴らしかったです。今後も地域の文化や伝統を誇りを持って伝えてください。

○ 11月30日(水)

小学校スクールミーティング(伊根町立本庄小学校)



○ 安藤 委員

伊根町雲龍山のふもとの伊根町本庄小学校を訪ねました。

この日は運良く山頂付近にある滝「布引の滝」を「肉眼で」見ることができました。白布を垂れたような滝の姿は、降雨時や雪解け水のある時期以外には、なかなかその水流を肉眼で確認することができない幻の滝だそうです。

学校のすぐそばにも、伊根湾や自然環境に恵まれた農地もたくさん見られます。今回はその地元の食材をふんだんに使った給食を児童たちと一緒にいただくことができました。学校給食において、伊根湾で獲れた新鮮な魚や、地元の農家で育てたお米や野菜を使い、地域と連携した地産地消の食育を推進しているのがこの学校のひとつの特徴です。

ランチルームの壁には給食に使用した食材や作り方の説明が丁寧に貼ってあり、食材を通じて地域の自然や文化を身近に感じられる工夫がありました。また、食事中、児童が食材についての説明や作り方を示し、調理員さんがどんな思いで作ったのかや、給食に関わる方々への感謝の気持ちを言葉にして、ひとつひとつの素材をより美味しく味わうことができました。

給食の後、5、6年生の専科指導(外国語活動)を拝見しました。

5、6年生の外国語活動では、「おすすめの国を紹介しよう」という単元で、自分たちが行きたい国やそこで見たい物などをまとめた旅行のパンフレットを作り、互いに訪ねたり聞いたりしながら英語表現に慣れ親しんでいました。近くの旅行会社を自分の会社に設定し、店員とお客になりきって交流するなど、児童の興味が沸く工夫がたくさんみられました。私たちもお客になって参加させていただきましたが、本当に旅行会社に来ている気分でもとても楽しかったです。英語指導教員・学級担任・AETの息の合った授業展開は活気があり、とても新鮮に映りました。

小学生の外国語活動は、「英語の音に慣れ親しむこと」「英語コミュニケーションに対する関心・意欲・態度を育てること」などを目標にしています。学級での英語活動の他にも、京都市内の大学生と交流したり、地域を訪れた留学生に地域を案内したりするなど、ネイティブの発音に触れる機会を意図的に作って活動をされているようです。

何より避けたいのは「英語に苦手意識をもつこと」です。是非、正しい発音にも気を配りながら、小・中・高できちんと英語の能力が積み上がっていくことを期待したいと思います。

この学校の全校児童数は19名です。どんな活動においても、児童が少ないため、活動の幅の広がりにも限界があります。子どもたちの成長に応じて必要な協調性や意欲を育てるためにも、大勢の中での体験は大切だと思います。今後は市町を超えた大きな枠で学習環境の整備など考えていく必要があるのではないのでしょうか。